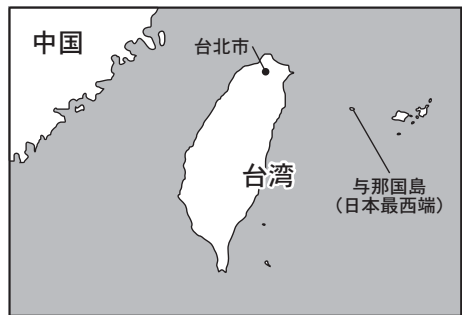


美浦中学校二年生が 台北市立敦化國民中学を訪問



- ◇引率者 《敬称略》
- 団長 糸賀 正美(美浦村教育長)
 - 富岡 正幸(美浦中学校校長)
 - 若林 功(美浦中学校教諭)
 - 大久保朗子(美浦中学校教諭)
 - 石川 大志(役場企画財政課)
 - 元井 絹代(語学教師・通訳)

今年で25回目をむかえる「美浦少年のつばさ事業」は、海外の同世代の人々との交流を通じて国際感覚を備えた美浦村の将来を担っていく人材の育成を目的に、美浦村人材育成推進協議会が毎年行っている事業です。今年7月31日から8月5日までの6日間、美浦中2年生16名を含む美浦村訪問団が台湾を訪れました。

今年も中学2年生の団員募集には多数の応募があり、抽選により16名の団員が決定しました。団員の皆さんは、普段の生活との違いに戸惑い、言葉の壁にぶつかりながらも、台北市立敦化國民中学の生徒との交流を通じてかけがえない友人ができました。台湾の伝統と文化を身近に体験した6日間でした。

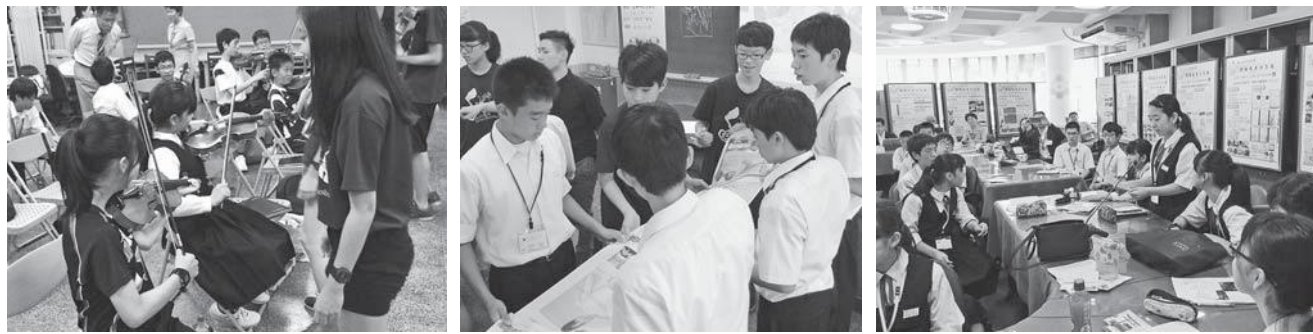


訪問団団長
美浦村教育長
糸賀 正美

このたび、「平成29年度美浦少年のつばさ事業」で訪問団の団長として参加いたしました。同事業は、美浦中学校と敦化國民中学の生徒との交流を中心とするもので、昨年10月に両校で友好交流の協定を締結後、初めての訪問となり、より深化した交流をすることができました。

交流事業では、身振り手振りで自分の意思を相手に伝える体験、相手の顔を一筆で描き、そこにメッセージを添える絵の作成、美術の授業では、マッピングの体験、国立伝統芸術センターでは、もの作りの体験、さらに、両校の生徒がそれぞれの願いを一緒に書いた、天燈を上げる体験もしました。美浦中の各生徒が、様々な場面で、ペアとなった敦化中の生徒とコミュニケーションを取る姿を、私はとても心強く感じました。

中学生の年代に海外での国際交流を体験することは、将来の美浦村を担っていく子ども達にとって大変貴重な経験であります。このような機会を提供いただき、美浦村の皆様から感謝を申し上げます。



芝崎 有伊稀
(2-A)

僕はこの少年のつばさ事業を終えて、学習したことがたくさんあります。その中の1つは、美浦中学校で勉強している英語です。英語は世界共通語です。僕は英語の勉強が苦手な「この少年のつばさ」に行き、英語を覚えたい」と思い、台湾に行きました。敦化中との交流は本当に忘れられない2日間でした。事業全体としては5泊6日という長い期間でしたが、僕たちがこうやって台湾に行けるのは、親、先生、美浦村のおかげです。そのありがたみや感謝を今後忘れずに、日常生活や学校生活で少年のつばさ事業で教わったことをやりとげていきたいです。



葉梨 未羽
(2-A)

今回、たくさんの人たちのお力を借りて無事に帰国できたこと、本当に感謝しています。台湾の建物はとても美しく、日本とは違う独特の雰囲気が印象的でした。その中でも、台北101は夜景が驚くほどきれいで感動しました。そして台湾の食べものです。かき氷を食べたり、ソフトクリームを食べたりして、日本にはないものがたくさん食べられました。交流でもたくさんの友達と仲良くなれて台湾のこともたくさん教えてもらいました。協力してくださった皆さん本当にありがとうございました。すべて私の大切な思い出です。



松本 佳苗
(2-A)

私は、少年のつばさに参加して台湾の敦化中学の生徒と2日間交流をしました。初めはお互いに言葉が通じずあまり話すことができませんでした。しかし、ジェスチャーや英語等を使ってコミュニケーションをとれるようになり、嬉しかったです。敦化中の生徒は楽器の演奏で私たちを歓迎してくれ、その後プレゼント交換やゲームをして絆を深めることができ楽しい思い出を作りました。交流以外でも、台湾と日本の歴史や食文化の違いを身をもって体験することができました。6日間で学んだことをこれから活かしていきたいです。



山田 友也
(2-A)

僕は、今回の少年のつばさ事業を通してたくさんのお話を学びました。まず1つ目は、敦化中生との交流です。言葉が通じ合わないとき、そんな時は、学校の授業でもやっている英語で話したりジェスチャー等を使って説明したりして通じ合わせていきました。2つ目は、台湾の歴史や文化です。日本では歩行者は右側通行ですが、台湾では左側通行ということです。だから、日本のままの感覚で右側通行をしていたら注意されました。これを活かしてまた台湾に行ったら気を付けたいと思います。



石井 花恵
(2-B)

私たち16名は、美浦中の代表、そして日本の代表として台湾で交流し、歴史や文化等、日本では体験できなかったことをこの5泊6日の研修で学ぶことができました。3日目と4日目の敦化中の生徒との交流では、敦化中の生徒が話している内容が分からず言葉の壁を体験しましたが、敦化中の生徒の子が英語やジェスチャーを使って話しかけてくれて、お別れするころには、すっかり仲良くなることができました。そこで私は、国や言葉は違っても国境を超えて仲良くできるんだなと思いました。



伊藤 尊
(2-B)

僕は今回この美浦少年のつばさ事業で台湾に行き、様々なことを学びました。まず始めに、敦化中の人達としっかり英語で会話できたことです。僕はそこまで話すことができないと思っていたのですが、自分の分かる簡単な言葉やジェスチャーを使って会話できたので意外と通じるんだなと感じました。次に文化のことで、台湾は日本と違ってバイクが多いことです。日本では基本車での移動ですが、台湾ではバイクの移動が基本だそうです。僕はこの研修で知らなかったこともたくさん学びました。また台湾に行き、様々なことを学びたいです。



私は台湾研修に行って、様々なことを学びました。中でも特に印象に残っていることは、敦化中の生徒との交流活動です。日本と台湾では言語が異なるので、最初は話すのが困難でしたが、一緒に過ごすにつれて、ジェスチャーや共通語の英語を使いながら、話すことができました。そこから敦化中の生徒たちとだんだん仲良くなり、1日目の夜ご飯のときにはみんなで笑ったり、楽しむことができ本当に良かったです。今回の交流活動で、心が通じ合えば仲良くなれるということが学べました。この経験を今後の生活に活かしていきたいです。



谷畑 美羽
(2 - C)

私は、今回の少年のつばさ事業に参加させていただき、たくさんの貴重な経験をすることができました。中でも敦化中の生徒との交流では、お互いの使う言葉が違って、共通語の英語とボディラングージでコミュニケーションをとることができました。人見知りなところがある私にとって、初対面の敦化中学生の前で英語やボディラングージを使うことは勇気のいる行動でした。文化の違う異国の中学生との交流は、小さな勇気とお互いを理解し合おうとする気持ちを持つことで、心が通じ合う素敵な体験となりました。



木村 みさと
(2 - D)

私は敦化中学校と2日間の交流をして、英語での会話の楽しさを知りました。最初は緊張して正しい発音でしゃべることができずでしたが、敦化中学生の英語を聞いているうちに通じるようになりました。言葉だけでなく心もだんだん通じてきました。個人的にも連絡先を交換したり、プレゼントももらいました。とても絆が深まったと思います。次は、日本に来てもらい日本の文化を伝えたり日本の名所と一緒にいきたいです。そして、日本の良さを知ってもらい、台湾の人に紹介してもらえたら嬉しいです。



来栖 真央
(2 - D)

6日間の台湾研修で、色々なことを学んできました。特に印象に残っていることは、敦化中学校の生徒との交流です。敦化中は、弦楽器による演奏で私たちを歓迎してくれました。最初は、緊張してうまく会話をすることができずでしたが、ジェスチャーや自分が分かる限りの英語を使って、積極的に話すようにしました。結果、敦化中の生徒と仲良くなることができました。2日間という短い時間の中での交流でしたが、色々な体験を通して、お互いに歩み寄っていけば国境を越えた友情を築いていけることを知りました。



寺田 ひの
(2 - D)



僕は敦化中学との交流会に対し始めはこの程度の英語力ではコミュニケーションがとれず会話が續かないのではないかと不安に思っていました。しかし実際行ってみると、みんな明るく出迎えてくれてとても話しやすい雰囲気ですぐに友達になることができました。不安だった英語も伝わると徐々に自信がついてきて自分から積極的に話せるまでになりました。帰国後も数人の友達とメールで連絡を取り合っていますが、もっと深い会話ができるよう、これからも英語を勉強し今回の事業の目的である国際感覚を備えた人材になっていきたいと思っています。



菊池 宇泰
(2 - B)

僕は外国に行ったことがありませんでした。なのでこの美浦少年のつばさ事業で良い経験ができたと思います。そして敦化中学の同級生との交流ではたくさんのことを学びました。1つ目は会話のしかたです。敦化中学のみんなは日本語を話すことができないので、共通語の英語を使って会話をしました。なので英語のリスニング力や話す力等がついたと思います。2つ目は敦化中学生の優しさです。トイレに行きたいと言ったら、トイレの場所まで丁寧に教えてくれました。本当に良い交流でした。他にも、台湾の歴史を知ることができてよかったです。



髙津 裕太
(2 - B)

僕は、この少年のつばさ事業でたくさんのことを学べたと思います。特に、現地の中学生と交流した際に「言語や文化が違っていても伝えたいという気持ちがあれば国境を越えても通じるんだな」と実感しました。今後、この事業で学んだ台湾の歴史や伝統、食文化等をこの研修に参加していない人たちに伝えていきたいと思っています。さらに、この経験を活かし、これからの日本と台湾の関係をより良くしていきたいです。最後に、この研修に参加して学んだことや経験したこと等を忘れないようにしたいです。



石垣 貴也
(2 - C)

僕はこの少年のつばさ事業を終えて、学習したことがいくつかあります。その中の1つは、言語の壁です。言語の壁はそこまで高くはありませんでした。でも会話を弾ませたいならやはり英語を身に付けなければなりません。実際海外に研修等にいくと現地の人と友達になれたりすることがあり、聞きたいことがあっても英語じゃないと通じないので、これからもっと英語を勉強していきたいです。台湾で学んだことは今後どういう場所で役立つかはわからないけれど、今後そのような機会があれば役立てたいと思います。



小林 翔太
(2 - C)

自分はこの事業を終え、たくさん学んだことがあります。まず1つ目は、英語はとても重要であるということです。何故そう思ったかということ、敦化中学生との交流を経て実感できました。そして2つ目は、人に感謝をすることです。自分はあまり親の元を離れて生活するということはなかったのですが、この5泊6日という長い間で親のありがたみというのがとても分かりました。そして、親の他にも引率して下さった先生方、そしてためになる体験をさせてくれた美浦村への感謝を忘れず、事業で培ったことを活かして生活していきたいです。



佐久間 生幸
(2 - C)

私は台湾に行き、楽しかったこと、学んだことが1つずつあります。まず楽しかったことは、敦化中の生徒との交流です。英語や台湾語もままならないまま向こうに行きましたが、ジェスチャーや簡単な英語を使おうとコミュニケーションをとることができました。次に、学んだことは国際人としての生き方です。初めての入国審査や初めてのパスポートを持つ旅行、文化の違いに触れあう等たくさんの慣れないことばかりでしたが、実際に海外に行くことで国際人としての生き方を学ぶことができました。



橋本 梨菜
(2 - C)